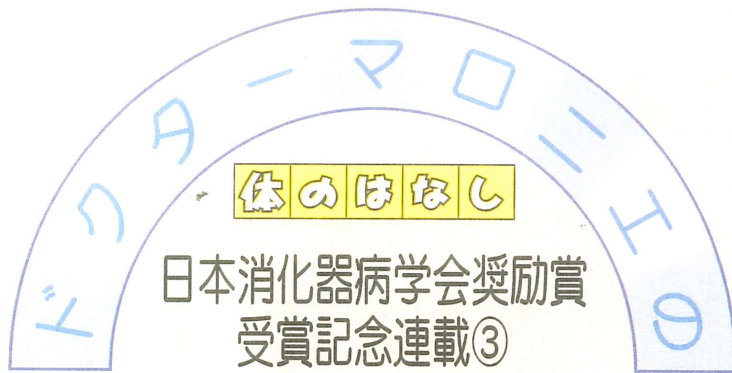




下都賀総合病院消化器科

江田 証先生



第69回

胸やけに悩まれる方へ

「みぞおちから胸の下あたりが焼けつく」、「酸っぱい液体や苦い液体がのどまで上がってくる」、「胸がしみる」などの不快な症状で悩まれているのではないでしょうか。これらの症状は、胃酸や腸液が食道へ逆流することによって起こる食道の炎症が原因で、「逆流性食道炎」という病気です。食生活の欧米化、高齢化などで日本人にも増加しつつある病気です。

食道と胃のつなぎ目にあり、逆流防止弁のような働きをしている「食道括約筋」のしまりが年齢とともに悪くなると、胃酸が逆流しやすくなります。食道と胃のつなぎ目を締めている「食道裂孔」という穴から胃がはみだす「食道裂孔ヘルニア」が生じると、さらに胃液が逆流しやすくなります。また、腰の変形、肥満や妊娠などでも胃に圧力がかかり、逆流しやすくなります。

治療としては、胃酸を抑えたり胃の運動機能を高める薬や、漢方を使用します。薬を飲んでいても症状が改善しないで悩んでいる方は、我々専門医にご相談ください。重症になると、食道が狭くなつて食物が通らなくなったり、食道癌に進んだりする場合もあるからです。ひと昔前は、弱い薬をまず使い、効かなければ強い薬に変更するという「ステップ・アップ療法」が行われていましたが、現在は、「ステップ・ダウ

ン療法」で、効果的な薬を最初に使い、早く患者様の症状を取り除いた方が、生活の質が向上し、医療経済上も安くてすむ、ということが統計的にわかっています。

私は、「逆流性食道炎が長い期間、十分に治療されずに続くと、食道の粘膜にバレット食道という異常な粘膜が出現してきて、これが食道の腺がんの発生母地になる。このバレット食道の出現には、CDX2遺伝子という遺伝子が大きく関与する」ということを発見し、米国消化器病学会で発表しました。バレット食道でCDX2遺伝子が発現している免疫染色の写真は世界初のもとなり、この英文論文に対し、日本消化器病学会奨励賞を授与されました。私の米国での発表をもとに、フランスの研究医師らが、「食道の細胞に胃酸をかけて培養すると、CDX2遺伝子が発現してくる」という研究結果を発表し、細胞レベルで私のデータを証明してくれました。

逆流性食道炎を治療中の患者様も、ただ薬を飲んでいただけでは不十分で、消化器専門医の内視鏡検査を受け、バレット食道という食道癌につながる変化が出てきてはいないかどうか、きちんと定期検査をする必要があります。当院の外科チームは優秀であり、バレット食道から生じた食道癌の治療も適切に行っております。

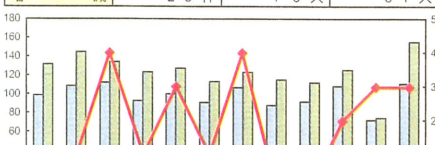
不快な症状があれば早めに検査を受け、薬を飲んで重症化するのを予防し、健康な人生にして頂きたいと切に願います。

平成16年度中の交通事故発生状況

栃木警察署

次の資料のとおり、発生件数、負傷者数は減少しましたが、残念なことに交通事故の犠牲者数は増加する

区分	発生件数	死者数	負傷者数
平成16年	1,216件	22人	1,530人
平成15年	1,244件	17人	1,611人
増減	-28件	+5人	-81人



管内の死亡事故の特徴

- 高齢者が11人、全体の50%と高い割合を占めた
- 夜間の死亡事故は16件発生、18人(81.8%)が犠牲となった
- 歩行中10人、自転車乗用中5人、これらの事故はすべて夜間に発生
- 国道・県道などの幹線道路で併せて13件発生、15人(全体の68.2%)が犠牲となった